

空き寺問題について

東京都・中央大学高等学校 3年 難波江 春風

私たち日本人は古くから寺と地域との結びつきを大切にしてきました。人々はみな寺で文字や学問を学び、なにか迷った時には善く生きるためのありがたいお話を聞くため寺に足を運んでいました。今でも多くの家は寺に代々の墓を持ち、葬儀や法事を寺で行います。そんな私たちの身近にある寺ですが、今、空き寺が問題となっているのを知っていますか？ あるデータによると全国に存在する7万7,000の寺のうち、2万が住職のいない空き寺だといわれています。

そもそもなぜ住職がいなくなってしまうのか。その原因は人口の減少にあります。ここ数年の日本の人口の推移を見てみると、南関東の都県と沖縄県、愛知県、福岡県を除くすべての県で減少傾向にあることがわかります¹⁾。そのうえ若者たちが働きに上京してしまうと新たな檀家の獲得が困難になってしまうのです。檀家がいなくということは寺の収入源がなくなるということです。そうしたことが原因で、特に地方では住職がどんどん離職するという事態になっているようです。

寺院の経済活動は、葬式や法事などによる檀家からの収入だけではありません。駐車場やテナントの賃貸、墓地経営、寺の拝観料などの収入があります。本山のお寺は末寺からの納金も大きな収入です。つまり、地域の過疎化と寺離れが叫ばれる今、檀家が多くおり、それなりに名前が知られていて、立地の良い場所にあるお寺でないと生きていけない時代となっているのです。

そもそも檀家制度を知らないという若者も増えています。自分の家の先祖代々が引き継いできたお墓がある寺を菩提寺といいますが、寺院墓地にお墓がある場合、お寺と檀家の関係になります。お寺の墓の継承者が亡くなった時には、葬儀の際に菩提寺の僧侶に経をあげてもらい、葬儀が終わったら菩提寺に納骨するのが基本となります。

出稼ぎに地方から都市に引っ越し、そのままそこに永住するという人も少な

くありません。引っ越した先で葬儀を行ったり勝手にお墓を作ったりしてしまうことで起こる菩提寺とのトラブルや離壇料^{りだんりょう}の高さが、離壇はしていないが寄進も墓の管理費を払うこともせずに菩提寺から離れた場所で暮らす、という人を増加させ、寺の経営はますます厳しくなっています。

後継者の少なさもこの空き寺問題を助長する大きな原因のひとつです。住職になるには、まず大学や専門学校で学ぶか寺に入門するかして資格を取る必要があります。それからお寺の事務などで修養をして住職になることができますが、寺にとって代々受け継いできた寺は家の財産であり、「どんなに真面目でも、自分の子供ではなく在^{ざい}家^け²⁾出身ですらない者に簡単に後を継がせるわけにはいかない」という考え方がまだまだ一般的です。僧侶はたくさんいるのに後継者の少なさが問題となるのは、こういうことだったのです。

しかし最近、この後継者問題に光がさし始めています。多すぎる空き寺が注目されるようになり、管理の手が回らず空き寺となっている兼務寺院を手放して新しい住職を入れた方が地域からの印象も良いため、住職になる門戸が大きく開かれることになったのです。求人広告の職種にも「住職」があり、企業人をリタイアして資格を取り地元の寺を管理するようになったり、縁も所縁^{ゆかり}もない土地のお寺に入り僧侶を目指したりすることが可能になりました。

しかしそれでも2万の空き寺を埋めるのには足りないのです。

空き寺の何が問題なのか、それはその管理が難しいことにあります。空き家となった寺は管理する人がいないため、老朽化によって伽藍^{がらん}が崩れてしまうことや、犯罪の巣になることが少なくありません。

仏教と人々との結びつきの弱さを何とかしようという試みは、各地の寺によってこれまでもいろいろと行われてきました。最近では、檀家制度を面倒に思う人のためにロボットが葬儀の際に経をよんだり、遺骨を宅配便で送ったりということまで行われています。しかしもう寺として使う予定のない空き寺をどう活用していくかについては、未だ解決策がありません。

そこで私は、これらの空き寺を、いじめで学校に通えなくなってしまった子供のための教育施設や、家庭内暴力を受けて苦しんでいる人々の避難所として活用することを提案します。

寺は大抵、町の喧騒^{けんそう}から少し遠いところにあり自然も豊かなので、落ち着いた

た生活を求める人や子供たちの教育場所に適しています。また、先ほども述べたように、資格はあるのに住職になれなかった人はたくさんいます。そのような僧侶が寺に助けを求めにやって来る人に説法をすることで、救われる人もいるでしょう。そのようにして信頼を積み重ねていくことが、昔のような寺と地域の関係を取り戻すきっかけにもなるのではないのでしょうか。

最近、いじめや人間関係のトラブルによる自殺のニュースを聞くことが多くなっています。苦しんでいる人を救いたいと思っても、人、金、場所がなくどうにも動けないこともあります。そうした状況になったとき、空き寺を活用することを考えてみてほしいと思います。

(注)

- 1) 総務省統計局 統計データ 「人口推計（平成28年10月1日現在）結果の要約」
URL <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2016np/index.htm>
- 2) 出家をせずに家庭生活を営みながら仏道に帰依する人

<参考資料>

鵜飼秀徳著『寺院消滅』日経BP社、2015年5月

